

# 火災を防ごう

一瞬のうちにすべてのものを灰にしてしまう炎。

恐ろしい火災を未然に防ぐためにも、主な出火原因を知り、日ごろから防災意識を持つことが大切です。



## 日ごろからの備えが肝心

出火原因のほとんどは火の不始末や不注意など、ちょっとした心がけで未然に防げるものばかり。火の用心のポイントを覚えておきましょう。

### ●こんろ

揚げ物をしている時は要注意。

揚げ物の際はそばを離れない（火を弱くしても、食用油は約350℃程度で自然発火する）。離れるときは、必ず火を消すこと。



### ●たばこ

ポイ捨て、寝たばこは厳禁！必ず消火確認を。

喫煙場所を設け、灰皿には水を入れておく。吸いかげのたばこは放置せず、必ず消火する。吸い殻のポイ捨てや寝たばこは絶対にしないこと！



### ●たき火

火の粉が出火の原因に。

風の強い日、乾燥している場所でのたき火はしない。水を入れたバケツを必ず用意し、終わったら必ず火ダネが消えているか確認する。



### ●ストーブ

燃えやすいものの近くでは使用しない。

カーテンのそばで使ったり、ストーブの上で洗濯物を乾かすのは危険。給油は完全に消火してから。対震自動消火装置が作動するか定期的にチェック。



### ●放火

夜、家の周りのものが狙われる。

新聞紙など、燃えやすいものは家の周りに置かない。ゴミは指定された当日の朝に出すことを心がける。



### ●火遊び

子どもはマッチやライターで遊ばせない。

子どもの手の届くところにマッチやライターは置かない。また、火の正しい使いかた、恐ろしさを教えておくことが大切。花火には大人が付き添う。

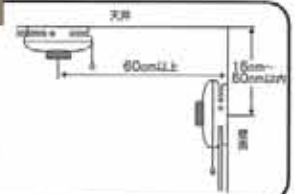


# 住宅防火対策の推進

## 住宅用火災警報器を 設置しましょう

### 天井設置と壁面設置

警報器は天井中央付近につけます。壁から60cm以上は離しましょう。壁面に設置する場合は、天井から15～50cm以内に取り付けましょう。



### 寝室

すべての寝室に設置が必要です。

### 階段

階段を上ったところの天井に設置しましょう。できれば、廊下の天井にも。

### 台所

義務ではありませんが、設置が望まれます。火災以外の煙を感じる恐れがあるため、「熱式」の警報器をつけるとよいでしょう。ガス漏れ感知機能をもった複合型警報器もあります。

## 住宅防火 いのちを守る 7つのポイント

### — 3つの習慣・4つの対策 —

#### 【3つの習慣】

- ◎ 寝たばこは、絶対にやめる。
- ◎ ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ◎ ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

#### 【4つの対策】

- ◎ 逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。
- ◎ 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防災品**を使用する。
- ◎ 火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器**を設置する。
- ◎ お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。